

群馬県川場村友好の森における「やま(森林)づくり塾自然教室」について

○嶋野弥名子、栗田和弥、麻生恵（東京農業大学造園学科）

1. やま(森林)づくり塾とは

群馬県川場村は上州武尊山の南麓に広がる山村で、1981(昭和 56)年に世田谷区と「区民健康村相互協力協定(いわゆる縁組協定¹⁾)」を結び、以来、両者の間で様々な交流が行なわれてきた。

それら交流事業のひとつに、世田谷区が借り受けている「友好の森」をフィールドとした「友好の森事業」がある。この事業は、下流域に住む世田谷区民が上流域の川場村の自然環境を村民と共同して守り育てていこうとするものであり、この中に「やま(森林)づくり塾」が開催されている。これは森や自然に親しみ、知り、学び、守り、育てる活動を実践していくものである。世田谷区民を対象とした森林ボランティアを「養成教室」「体験教室」として、東京農業大学林政学研究室が指導にあたっている。また、川場村と世田谷区の小・中・高校生を対象とした「自然教室」が東京農業大学風景計画学研究室を中心とした学生ボランティアリーダーによって実施されている。

2. 自然教室の概要

自然教室には、小学 4～6 年生を対象としたジュニアクラス、中学・高校生を対象としたシニアクラスがあり、前者は今年で 10 年目、後者は 3 年目の活動となる。夏休み期間中にジュニアクラスは 3 泊 4 日、シニアクラスは 5 泊 6 日の日程で実施され、両クラス共に、東京農業大学の学生が、企画の段階から携わり、プログラム作成、準備そして実際の指導にあたっている。自然教室シニアクラスのプログラム構成は図-1

のような要素から成り立っている。

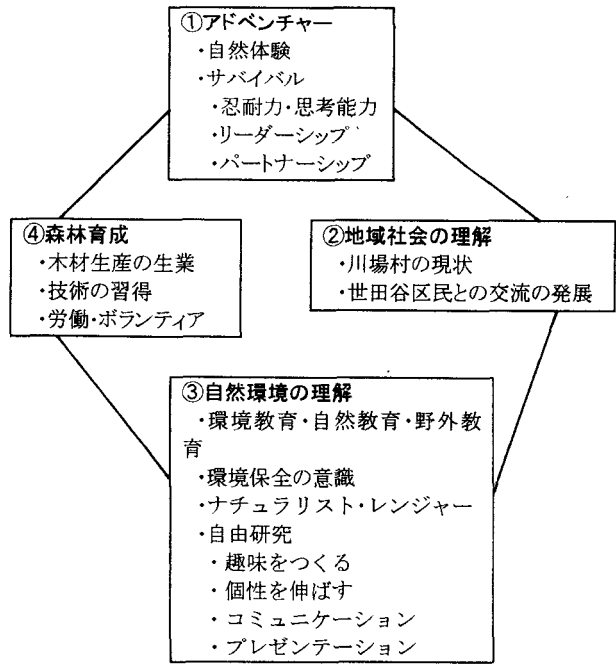


図-1 自然教室シニアクラスのコンセプト

3. 自然教室のプログラム

過去 3 年間のシニアクラスのプログラムを分類してみると、表-1 のようになる。

①アドベンチャー

「ソロビパーク」は、村内にある川場牧場で、お互いが見えない距離に離れ、必要最低限の物で一晩を過ごすというプログラムである。一人の野宿を怖がる者、流れ星・満天の星空を初めて見た者もいて、サバイバル、忍耐力をつけるという面から見て、とても良いプログラムであった。「それいけ！かわば」は、村内のいくつかの地点に 3～4 人グループで目隠しをして連れて行き、そこ 0 からゴール地点まで歩くというものである。リーダーシップ、忍耐力、思考能力だけではなく、村民との交流、川場村の理解もできるプログラムであった。「火熾(おこ

表-1 自然教室シニアクラス プログラム名

	平成6年度	平成7年度	平成8年度
①アドベンチャー	ソロビパーク	それいけ！かわば	火熾(お)こし
②地域社会の理解	ファームステイ	ファームステイ	ファームステイ
③自然環境の理解	スライドレクチャー	バードウォッチング	植生・野鳥調査
④森林育成	フィールドワーク	ガキンチョパーク	ティピーづくり

し」は、自分たちで熾こした火で食事を作るプログラムであり、先人たちの苦勞、現代の生活の便利さを振り返る上での良い機会となった。

②地域社会の理解

「ファームステイ」は、シニアクラスが実施されるようになってから3年間、

継続的に行なわれているプログラムである。村内の7～9軒の農家に2～4人ずつ農作業および、農家の生活を体験するもので、川場村の産業を知る上で大変良い機会となっている。また、初年度は、農家に対して受け入れを依頼していたのであるが、今年度は、村内の様々な農家から受け入れの要望が増加した。

③自然環境の理解

「バードウォッチング」は、村内の4地点の上空で見られた鳥類を記録し、全員でルートを図に落とすというものを行なった。「植生調査」は友好の森内にある草地の植物種を分類し、ネーミングを行なった。「野鳥調査」は、ルートセンサス調査、定点センサス調査を行なった。いずれの調査も、学術的な結果を求めるものではなく、このような調査の紹介・体験、関心を持つきっかけとなる動機づけの強いプログラムである。

④森林育成

「フィールドワーク」は、森を歩き、森の中を歩くことの気持ち良さをどのようにしたら他の人に伝えることができるか、などを投げかけ、参加者自身で考えさせた。その結果、「散策路を造る」「ベンチを置く」「樹木にネームプレートを付ける」「案内パンフレットを作る」という案を採択し、それらの整備を行なった。「ガキンチョパーク」は、森の中でジュニアクラスの小学生と楽しく遊ぶにはどうしたらいいか、を参加者に考えてもらった。その結果、「ターザンロープ」「樹上デッキ」を整備した。友好の森内の一部の雑木林を「シニアの森」と名付け、そこで行なわれた「ティピーづくり」は、カヤヤスギ、クリなどの間伐対象木を使って、小屋を2つ造り、森の中で一晩を過ごした。これらを整備した場所は、3年間同じ場所を使うことにより、森林作業の技術の修得だけでなく、完成した施設の充実、友好の森への愛着が湧いてくるようになったことが、自然教室終了後のアンケートから明らかになった。

4. 今後に向けて

シニアクラスが実施されるようになってから3年が経過し、地域社会の理解に関しては、ファームステイの農家からの要望が増加し、森林育成に関しては、友好の森への愛着が湧いてきたことを受けて、今後は、自然教室のジュニアクラスからシニアクラスへと、また、自然教室のシニアクラスから養成教室へと、「やま(森林)づくり塾」の中で参加者が継続して参加できるような活動にしていきたい。

注釈および参考文献

- 1) 姉妹協定に近いものであるが、姉妹の上下関係をなくすことで「縁組」と呼ばれている。
- 2) 栗田和弥・山本昌広・成瀬あすか・安斎亜由美・登坂由紀子(1994): 世田谷区民健康村におけるアウトドア・レクリエーションを中心とした子供の交流活動について。日本造園学会関東支部大会発表要旨。11. p.71.